(何を探していますか)

小田朔美さんとはSNSを通じて2年ほど前に知り合いました。
音楽の趣味をきっかけに仲良くなり、実際に会って話してみると同じ京都芸大出身だということがわかりました。小田さんは現在大学2年生で、2005年生まれの20歳。僕は1990年生まれで今年35歳。大学を卒業してからもう10年以上経ちます。一回り以上も歳が離れているんですが、不思議と感覚が合って、話していると自分が学生だった頃を思い出して懐かしい気持ちになります。

「先生にウケる作品をつくる人が評価されている」

学校という小さな社会の中で、先生と生徒の力関係は絶対です。学生時代の僕はどうにか自分の表現を認めさせてやろうと、わざと天邪鬼なことばかりをして先生の反感を買っていました。ただ学校と自宅を往復する生活の中で、芸術の意味を求め悶々とした日々を過ごしていました。そして次第に、視野を広げるため学外の人たちとの関わりをインターネットの中へと積極的に求めるようになりました。思い返せば、当時僕の描いていた絵というのは仲間探しのためのツール、もしくは歌のようなものだったのではないかと思います。作品としてのフォーマルな外観よりも、気分やムードを未分化な造形のまま誰かに伝達させることに取り憑かれていました。そうした絵を通しての人との心のつながりは、美術の枠組みが支配する学校の中では得られないもので、自分にとってかけがえのない意味を持っていたからです。多くの若者にとって、大人からの評価に合わせて自分をお手本通りに作り上げることよりも、同じ感覚を共有できる友達を見つけることの方が人生にとって意味があるはずです。しかし、そういった自己実現を美術という世界の中で追求していくことは今も昔も簡単ではありません。

「好きな人の1いいねより知らないフォロワーの100いいねの方がいい」

一方で、SNSが当たり前の若い世代との価値観の違いも感じます。僕が学生だった頃はちょうどTwitterやInstagramが始まって間もないSNS黎明期でした。当時は知り合いのみの相互フォローが基本でしたが、今日ではSNSの空間は拡張され、プライベートな部屋から公共の広場になってしまいました。現在のSNSにおいては多くの人々の注目を集めることが最大の価値とされ、個人の小さなつぶやきは一瞬のうちに忘れ去られてしまいます。そんなSNSが日常化した世界で、僕らは他人が見たい「キャラ」を演じることが昔以上に求められているように感じます。「こんなの投稿しても誰もいいねしてくれないだろうな」「自分のイメージと違うからこれは投稿しない方がいいな」自意識過剰になって身動きが取れなくなってしまうこともあるでしょう。SNS上でのアーティストの振る舞い方にもそれは表れています。学生のうちからInstagramに作品を投稿し、作家活動を行うことも普通になりました。多くの場合で、SNSが作品や作家の方向性を早い段階から限定してしまっているように僕は感じます。

今回の展覧会では、僕たちの行為が名前のついた何かになる前の、心の表出に留まっている状態をありのままに展示します。「何を探していますか」というタイトルは、SNSやマッチングアプリでの常套句です。時間のロスを無くすため最初に互いに求める役割を擦り合わせる、無粋な誘い文句です。しかし、このような問いに規定されない人間関係だって本当はあるのではないでしょうか。僕たちが探しているものは何なのか、答えを出さないでおくことからまずは美術というアイコンタクトを始めてみたいと思います。

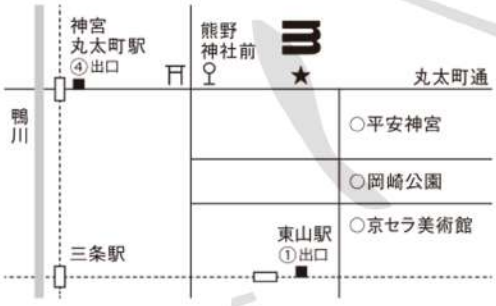
清方

布と布の深い隙間を越えていきたいです（ｉ＿ｉ）
odasakumi

清方 (Kiyokata)
1990年生まれ
画家

odasakumi
2005年生まれ
京都市立芸術大学 染織専攻 在学中

(何を探していますか)

2025.12.19 (金) 20 (土) 21 (日)
11:00-19:00 (12.19 14:00- /12.21 -18:00)

at Gallery metabo
京都府京都市左京区聖護院山王町18
メタボ岡崎103
京阪「神宮丸太町」駅4番出口より鴨川を背に東に徒歩10分
MAIL sugimasa1111@gmail.com　TEL 090-2287-5406